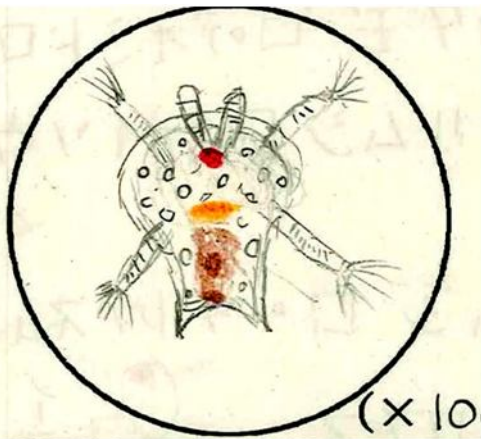


「ケンミジンコの抜け殻」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

ケンミジンコは節足動物(節足動物門)、甲殻類(甲殻亜門)に属する、動物性プランクトンである。つまり、エビやカニに近い仲間である。従って、幼生(ノープリウス)は、エビの幼生とそっくりである。多くのエビ類は、脱皮して成長するが、ケンミジンコもそうである。幼生から成体になるまでに、実に11回も脱皮をするという。脱皮をするということは、必ず抜け殻があるはずである。子どももそう思ったようだ。



(ノープリウス)
いっしょけんめい、おまごうとしていた。



(キクロプス)
体の甲の物がうごいていた。

「子どもの観察スケッチ」 幼生(ノープリウス)と成体(キクロプス)の特徴のちがいを記録している。幼生も成体も、背(または腹)を上に向けていて、横を向いていることは稀である。

【子どものノートから】

「ケンミジンコはエビと同じ仲間だ。ザリガニも脱皮するから、ケンミジンコも脱皮をするはず。次回のじゅ業の時、ケンミジンコのぬけがらをさがしてみたい。ケンミジンコは、体がほとんどどう明なので、ぬけがらも、きっとどう明だと思う。」

なかなかいい発想である。「ぬけがらも透明」という予想も優れている。私は、あるクラスでこの問いを共有して、研究課題の一つとして取り組むように働きかけた。

予想通り、脱皮したケンミジンコの抜け殻が次々と見つかった。面白いことに、生きているケンミジンコは、背または腹を上に向けている姿で泳いでいるのに、抜け殻は必ず横に寝ている。これを見つけた、子どもたちのつぶやきが面白かった。



「ケンミジンコの抜け殻」 ×100 透過光

【子どものつぶやき】

「何これ?エビじゃん、エビ。完全にエビ。」
「すげー、こんなに細かい毛っぽいところまで、脱皮ってするわけ?」

「〇〇君の予想通り、透明だ。」
「あ、抜け殻の中に、小さいプランクトンが泳いでる。抜け殻を家に利用してる感じ。」